

「アカデミー」

米国書道アカデミー

在米の吉田さんに秀作賞

産経国際書展、選んだ字句は「絆」

8月14、20日に東京都美術館で開催された第40回記念産経国際書展で、米国書道アカデミー(主宰・松岡八十次)の会員・吉田圭子さん(石川県出身、ロサンゼルス在住)が現代書部門に初出品した作品が、秀作賞を受賞した。初出品としては非常に価値ある快挙で、将来が期待される。

選んだ字句は「絆」。2011年の世相を表す漢字として京都清水寺の森貫主が揮毫(きこう)して以来、全国的に広まっていったがその前年、南加愛媛県人会創立100周年記念式典の指揮を執った松岡八十次さんが、テーマとして採用し、記念誌にしたためた字句が「絆」だった。

吉田さんは故郷の欧州に帰っていた親友との深い友情を

温める意味を込めて、この字句を選んだという。

1984年猪足の産経国際書展は今年で40回目を迎えた。米国書道アカデミーを主宰する松岡さんは、第9回から出品を重ね08年に審査会員に昇格。目下、唯一の米国在住男性審査会員である。産経国際書展の最高賞である「高門宮賞」を第2回書展で受賞した故生田観周師の指

導方針に沿い、伝統書、臨書の修練に余念がない松岡さんが選んだ今年の字句は、嵯峨天皇作「哭澄上人詩」で、これは822年に最澄の死を悼んだ嵯峨天皇が大韻の詩を染筆し影前にささげた詩である。

一方、現代書部門の出演作は「妙は虚実の間にあり」。1922年に行った文部省主催武道演武会での空手の演舞



【写真上】初出品で秀作賞を受賞した吉田圭子さんの「絆」【右】吉田圭子さん(ロサンゼルス在住)

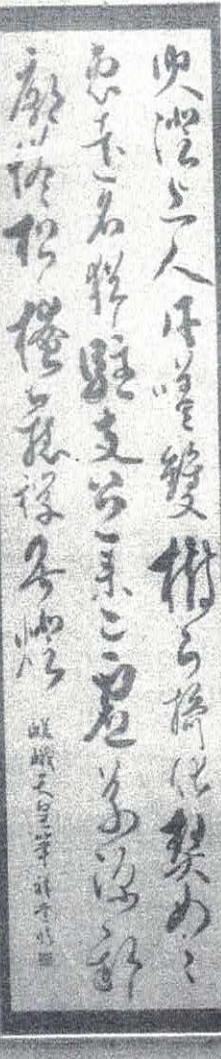


を皮切りに、日本本土に空手を広めた松濤館流空手道の開祖、船越義珍師によるもので、武道愛好家には大いに親

しまれている言葉である。松岡さん自身、剣道と空手の武道歴は30年で、この言葉は書道とも相通じるものがあると述べている。

産経国際書展は第40回を記念し、11月29日、12月3日に愛媛県美術館にて四国展を開催する。愛媛県出身の松岡さんは特別招待を受け、都立美術館に展示された両作品が松山でも展示されることになっている。

米国書道アカデミーへの連絡は松岡さんまで電話62



松岡さんが選んだ今年の字句、嵯峨天皇作「哭澄上人詩」(写真提供 松岡さん)



グローバル

10月

6・2001・92242
またはメール
pnce2257@gmail.com

画「2001年宇宙の旅」で空っぽの美しさを求めるがゆ

で、男性は女性に気に入らるし、中東の国の中には信仰

オレンジ郡アーバイン今年も、世界各国の文化